

## 「四季・植物」 6 蕎麦

学名 *Fagopyrum esculentum* Moench

タデ科の一年草

実に角があるところから古名を「稜麦」といい、略されてソバと呼ばれるようになったといわれる。

### 郷土資料から見た蕎麦のあれこれ

麺としての蕎麦はハレの日のごちそうとして、特別な行事や珍しい来客があったときに作られることが多かったという。

大晦日に食べる「年越そば」だが、その起源にはいくつかの説があり、名前も「つごもりそば」「運氣そば」「運そば」などと呼ばれることもある。

柏崎では農山村部で多く栽培されていて、「ソバ刈り」と呼ばれる「根からこぎ、根元を揃えて切り落とし、わらで一把ずつまるける」〔(柏崎市史資料集 民俗篇)〕刈りかたをした。「蕎麦の花」は秋の季語、「蕎麦刈る」は冬の季語となっている。

つなぎに山芋、そばのり、やまごぼうの葉、とろろあおいの粉などを用い、「隣家に聞こえないように、そっとソバをのすことをノストのしといい、ゆであげた一山をテブラといい、一テブラ、二テブラと数える」〔(柏崎市史資料集 民俗篇)〕という。

#### 参考資料

「柏崎の植物」	柏崎市教育委員会編	1981	「日本大百科全書」	小学館発行	1994
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「俳句の花」	青山志解樹著	1997
「図説花と木の大辞典」	植物文化研究会・雅麗編	1996			